

音楽家医学研究会のご案内

HOME > プログラム

プログラム

HOME >>

プログラム >>

アクセス >>

リンク >>

11:00~11:10 音楽家医学とその動向
酒井直隆 (さかい整形外科・東京女子医科大学整形外科)

11:10~12:10 音楽家の歯科治療 -研究と臨床-
服部麻里子 (東京医科歯科大学歯学部附属病院 顎義歯外来)

管楽器演奏において、口腔の形態と機能は重要であるが、歯科医学における研究で楽器演奏について報告した例は少ない。楽器演奏を客観的に評価し、歯科治療による演奏への影響を明らかにして初めて、管楽器奏者の歯科治療方法について科学的に論じることができると考える。本発表では音響分析を用いた楽器演奏の客観評価に関する研究を紹介し、また管楽器演奏を考慮した歯科治療の工夫や、演奏用義歯の作製について症例を供覧する。

12:10~12:30 参加者の自己紹介 (希望者のみ)

12:30~13:30 昼食・参加者同士の交流

13:30~14:30 音楽家の手の障害-患者立脚型評価尺度解析からみえること
上原浩介 (東京大学医学部 整形外科)

約3500例の上肢患者立脚型評価尺度のデータベースから、音楽家のデータを抽出し、解析した結果を提示する。弦楽器は鍵盤楽器に比して音楽活動と上肢機能との関連が弱く、弦楽器のパフォーマンスには上肢機能以外の要素の影響を受けていることが示唆された。また、音楽家における手疾患の治療において、安易にメスを入れるべきではないが、時に手術の選択を余儀なくされることがある。当院手の外科の音楽家に対する手術例の手術に至った経緯、術後経過を提示させていただく。

14:30~15:30 箏演奏時の押絃に必要な力とそれに伴う筋活動
安藤珠希 (生田流箏曲)

「箏はおしとやかで優雅な楽器」だと思われているようであるが、実際はどのようなのだろうか。箏演奏では、「押し手」と呼ばれる奏法によって絃の張力を変化させ、音高を調整している。この奏法は箏演奏上の重要な基本動作であるが、最も左腕への負荷が高い。そこで、本講演では押し手によって絃にかかる力(押絃力)と筋活動の計測結果を報告するとともに、箏の紹介、演奏者・指導者の立場からの経験談・要望等も話題として提供したい。

15:30~15:40 休憩

15:40~16:40 歌唱に影響をおよぼす発声障害について
渡嘉敷亮二 (新宿ボイスクリニック)

歌声に影響を与える病気は多岐にわたる。声帯ポリープや声帯結節は世間でもよく知られておりこれらは声帯に生じる病変である。一方で声帯には異常がないのに思うように声がコントロールできない例があり、これらは機能性発声障害と呼ばれる。歌手に生じる場合は高音を出す、声を張るなどの際に喉がしまったり、意図していない周期的なふるえ（ビブラート）が起きることがあり近年増加傾向にある。今回は後者を中心に声の病気について広く解説する。

16:40~17:30 5人の演者とのディスカッション

上記5人の講演者と会場の参加者で、自由にディスカッションを行っていただきます。

司 会：中澤公孝（東京大学大学院総合文化研究科）
工藤和俊（東京大学大学院総合文化研究科）
酒井直隆（さかい整形外科・東京女子医大附属成人医学センター）

Copyright (C)